

# キラリと光る自信に満ちた郷土づくり 〜いつも微笑みながら暮らせるマチをめざして〜

## 「農業の取り組み」 米のまち・ふかがわ

深川市の基幹産業は、何といっても農業です。農家の皆さんは、恵まれた土地条件などを生かし、稲作を中心に畑作や果樹、野菜、花卉、酪農・肉用牛といった多様な作目に取り組み、その生産物は多方面から高い評価を頂いています。特にお米は、農業試験場における品種開発や生産者をはじめ、関係機関・団体による良質・良食味米の安定生産への取り組みなどが鋭意進められてきたことで、前年は食味が良いとされる低タンパク米の割合が約8割と過去最高となりました。最近の消費者を対象とした食味官能試験では、本市で作付けしている品種「ふっくりんこ」などが本州の有名銘柄を超える

好成績を収めています。また、米のいわゆる責任産地として、さらなる販売拡大に向け、私自身、JAと共に取引先への消費拡大の働き掛けを行うとともに、深川産米キャラクター「こめっち」の活用や試食会の実施などにより、道内外において深川産米のPRに努めているところです。

一方で、地元農産物の消費拡大とともに、市で推進する食育の取り組みを着実に展開するため、地産地消にも力を入れています。さらには、米価低迷が続く中、花卉や野菜など高収益作物の導入と併せて、収益性の高い和牛の導入・拡大などにより農家所得の向上を図ること、また環境への配慮といった観点からバイオマスの検討や担い手育成に関する新たな取り組みなども行っているところです。

本市では、食料と環境の時代といわれる21世紀において、可能性あふれる農業・農村を守り育てるとともに、地域全体の貴重な財産として、次世代にしっかりと引き継いでいくことが極めて重要なことと考えています。

## 「情報発信基地」 ライスランドふかがわ

深川のシンボル・道の駅「ライスランドふかがわ」は、米のまち・ふかがわのイメージを中心に各種情報を発信しながら、通過する多くの人々を市内に誘導するとともに、深川らしさを提供する憩いの施設として、毎年100万人以上の方に来館いただいています。

深川の大型・近代化農業をプロジェクターで知ることのできる「お米ギャラリー」では、本市農業の優



深川産米キャラクターの「こめっち」

位性をPRするとともに、「精米体験コーナー」ではもみから白米になるまでの行程を見学し、今摺米を<sup>いますりまい</sup>購入できるほか、クイズやゲームを通してお米に関するさまざまな学習ができます。そのほか、次のような機能を持っています。

- ▼情報コーナー…道路・気象状況や観光スポット、食事処などの情報を発信
- ▼農産物直売所…新鮮で安全・安心な旬の農産物を販売
- ▼特産品販売コーナー…深川ブランドとして開発された商品や特産品を販売
- ▼テイクアウトコーナー…大おにぎりや濃厚なソフトクリーム、牛乳などを販売
- ▼レストラン…お米を主題としたテ

は、これぐらいのチャレンジは必要と考え、現在ではそばクレープが地元レストランの定番メニューになっています。

もう一つは、黒米です。深川は北海道唯一の黒米品種「きたのむらさき」の発祥地です。玄米の皮に赤や紫などの色素を含み、一般的には紫黒米とか赤米、あるいは古代米と呼ばれていますが、本市では

「くろまい」と呼んでいます。この黒米は、地元の拓殖大学北海道短期大学が10有余年の歳月をかけて品種改良を行ったものです。ポリフェノールの一つアントシアニンを含み、血糖値を下げるなどの効果が期待され、まちおこし団体と共に商品開発を進めており、現在では19社51品目まで広がっています。



オープン6年目で来訪者が600万人を超えた道の駅

## マレストラン

また、春秋の行楽シーズンや収穫時期に合わせて、深川で採れた農産物を味わえる「メロン・スイカ祭」や「稔りの秋収穫祭」など数多くのイベントを開催していますので、ぜひ一度お立ち寄りください。

## 地域資源の掘り起こし

現在、本市では地域経済の活性化を図るため、総務省の「頑張る地方応援プログラム」を活用し、「にぎわいの街創出プロジェクト」「来てみて暮らすプロジェクト」「総合

地域経済活性化計画」の三つのプロジェクトを推進しています。

事業実施に当たっては、広く市民の参画を得て「ふかがわ元気会議」を設立、部会として中心市街地活性化部会・移住定住促進部会・地域産業活性化部会の3つを立ち上げ、知恵とアイデアに富んだ事業の企画・運営を進めています。各部会では毎回活発な意見が交わされ、「まずはやってみよう」を合言葉に、自ら行動を起こしていく活動的な会となっています。ここでは、地域産業活性化部会の取り組みを紹介します。

地域産業活性化部会では、特産品の開発を目的に地域資源の掘り起こしに取り組んでいます。まず最初に、生産量全国第2位のソバと北海道第7位のリングゴです。私がフランスで食したガレットとシードルが共通の特産品であることをヒントに、そばクレープとりご発泡酒造りに取り組みました。市内の飲食店や団体に依頼し試作を繰り返ししましたが、クレープといえは小麦粉、ワインはブドウをイメージする中で、その反応は賛否両論でした。しかし、地域の強みとなり得る資源を掘り起こすに

## プロフィール

- ◆ 面積 529・23km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 2万4170人
- ◆ 世帯数 1万1326世帯

〔将来都市像〕「市民とともに創る住みよいまち 深川」

〔まちの特徴〕北海道のほぼ中央に位置し、まちの中心地を石狩川が流れている。交通の利便性が良く、豊かな自然の恵みと田園景観に囲まれたまち

〔特産品〕米、ソバ、キュウリ、ねばり長イモ、リングゴ、サクランボ、深川そばめし、深川ワイン、ウロコダ



深川市長 山下貴史



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 「人行きかうまち」「人ふれあうまち」 「入学びあえるまち」「市民がキラリと光るまち」

## 新庄

### 交通の要衝・東北のへそ

新庄市は、山形県の北部に位置し、国道と鉄道が交差する交通の要衝で、北は秋田県湯沢市、東は宮城県大崎市まで約1時間の距離にあり、新庄を訪れば一気に3県楽しめる「東北のへそ」とも言われる要の都市です。

また、山形新幹線が新庄まで延伸されてからちょうど10年、山形県の北の玄関口としての役割が一



自慢の味の再発見を目指す「新庄味覚まつり」(10月)

層期待されています。

### 市民の心意気「新庄まつり」

本年は、市制施行60周年、「新庄まつり」の山車(やたい)行事の国重要無形民俗文化財指定、山形新幹線新庄延伸10周年と3つの慶事が重なりました。

「新庄まつり」は、毎年8月24日、25日、26日の3日間にわたって開催されます。40万人を超える観客が訪れる、市内、近郊近在すべてが熱く燃える祭りです。県内でも250年を超える歴史と伝統を兼ね備えた祭りとして高く評価されています。この期間、市内はもとより周辺の町村の小中学校、そして県立高校までもが祭りのために休みとなります。山車の製作は町方が、笛や太鼓のはやしは在方が担当する市民総出の祭りです。豪華

絢爛な山車21台が市内を練り歩きます。

また、天満神社のご神体を乗せた「神輿渡御行列」は、古式ゆかしい大名行列を連想させ、傘回し、挟み箱など観客を魅了する妙技を所々で見せてくれます。さらに、県指定の無形民俗文化財となっている萩野・仁田山集落の「鹿子踊」の奉納も見逃せません。

東北の夏祭りの最後を飾る「新庄まつり」は、新庄の若者を故郷へ呼び戻す原動力でもあり、新庄人の心の原点です。この祭りが終わると秋風が吹くといわれ、秋の味覚まつりへと向かいます。

### おいしい新庄再発見! 「新庄味覚まつり」

この祭りは、本年度2回目になります。中心商店街の活性化と「お

らが自慢の味の再発見」を目指し

て、市内の4つの商店街、J A、商工会議所、料飲組合、産直組合など市内のありとあらゆる団体に声をかけ「新庄味覚まつり」と称して開催したところ、「新庄まつり」を思わせるような人出で街中は一日中大変な盛り上がりを見せました。

新庄の味覚の代表格が山形名物の「芋煮」で、しょうゆ味派とみそ味派に分かれ、それぞれ一歩も引かぬ舌戦になります。また、「手打ちそば」も自慢で、新幹線延伸の際も「新庄はかなりそばである」というキャッチフレーズに使われるほど、誰にでも満足いただける隠れたそばの里です。ほかにも、ラーメンに煮込んだ鳥もつをのせた「愛をとりのつラーメン」なども人気で、多くの店が手打ちや自家製麺で特徴を出している「こだわりの店」が多いのも自慢です。

### 「100円商店街」発祥の地

今、全国的に広まりつつある

「100円商店街」の発祥の地が新庄です。全国サミットとも重ね合わせた「第1回新庄味覚まつり」では、全国から訪れた商店街の方々も大いに盛り上がり、互いにパワールの交換をしました。

また、この「100円商店街」にちなんで、横浜市では、横浜開港150周年記念「横浜150円商店街」として開催されることになり、新庄からはおいしい手打ちそばを

出前しました。アマチュアの「新庄そば工房」の打ち手が、六角橋商店街の一角でそば打ちを披露しながら150円で提供したところ、「おいしい、おいしい」の連発で、用意した450食がたちまち完売しました。

### 「市民が主役 市民が動く 市民が光るまちづくり」

夏の「新庄まつり」をはじめとして、春の「新庄カド(にしん)焼きまつり」、秋の「新庄味覚まつり」、冬の「新庄雪まつり」、他にも固定ファンが多い「あじさいまつり」や「みちのく民話まつり」など、四季折々にさまざまな祭りが開催されています。そこには、多くの市民が参加し、祭りを盛り上げてくれます。まさに、「市民が主役 市民が動く 市民が光るまちづくり」の実践者です。行政は、市民と共に汗をかき、励まし、互いに褒めたたえ合える地域づくりの仕組みをつくることで、参加した市民が自信を得るような政策を進めることを心掛けています。

### まちづくりは人づくり

市制施行60周年に当たる本年を

新庄市長  
山尾順紀

### プロフィール

- ◆ 面積 223.03 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万9457人
- ◆ 世帯数 1万3492世帯

【将来都市像】自然の豊かさや雪と共にある暮らしを味わい楽しむことができる「田園都市」

【まちの特徴】県の北東部、最上地域の中心都市で古くからの交通の要衝。県庁所在地以外で新幹線のターミナル駅を持つ数少ない市の一つ。

【特産品】くじらもち、新庄東山焼、新庄亀織、新庄漬、玄米みそ、納豆、鳥もつラーメン、芋煮、そば

【観光】鳥越八幡神社、旧矢作家住宅、新庄藩主戸澤家墓所、新庄城跡、八向橋、芭蕉乗船の地

【イベント】新庄まつり、新庄カド焼きまつり、新庄味覚まつり、新庄雪まつり、あじさいまつり、みちのく民話まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



豪華絢爛な山車が練り歩く「新庄まつり」(8月)

# 子どもたちが笑顔で輝き続けるために 子育て・子育てしやすいまちづくりを推進

## はじめに

我孫子市は、千葉県の北西部に位置し、北の利根川と南の手賀沼に挟まれた水と緑の豊かなまちです。

市内には、旧石器時代からの住居跡や貝塚、古墳などの遺跡が数多く残り、大正期には志賀直哉や武者小路実篤など、白樺派の文人たちが手賀沼のほとりに居を構え、「北の鎌倉」と呼ばれました。

都心までJR常磐線で約35分と交通の便が良いことから、東京のベッドタウンとして発展してきましたが、人口急増期に転入してきた世代が高齢化率を一気に引き上げる予想されるため、若い世代が住みやすく子育て・子育てしやすいまちづくりに力を入れています。

## 子ども行政の体制を確立

子育てや子どもが育っていく子育ての環境は、少子化の加速、子育てに対する意識の変化、遊び場の減少、近隣関係の希薄化による地域の子育て力の低下などにより、大きく変化しています。



チャレンジタイムの先生は近所のおじさん(あびっ子クラブ)

このような社会背景を踏まえ、我孫子らしい子ども行政の確立を目指して、平成16年度に「我孫子子ども総合計画」を策定しました。また、本年度には「子ども部」を創設して子育て・子育てに関する支援を強化し、総合的・計画的に取り組むための体制を確立しました。

## 先駆的な取り組み

● 保育園と学童保育室の待機児童ゼロ

就労形態の多様化や共働き世代の増加により、出生率が低下しているにもかかわらず、保育園と学童保育室の児童数は増加しています。そのため、施設の計画的な増改築や定員の見直しを行い、待機児童ゼロを継続してきました。

保育園では、一時保育や延長保育、出前保育などさまざまな保育



元気いっぱい親子でダンス(にここ広場)

## まちづくり戦略としての 子育て・子育て支援

持続可能な行政運営を確立するためには、財政的な基盤づくりが不可欠です。住宅都市である本市では、若い子育て世代に定住していただくことが重要課題です。今後は、行政が子育てを肩代わりするのではなく、行政と家庭、学校、地域、企業などが連携して

地域の子育て力を復活させ、子育てと親育ちができる「共育ち」のような新たな子育てシステムの構築が必要であると考えています。厳しい財政状況に変わりはありませんが、子どもは本市の宝であり、子育て・子育て支援は未来への投資と位置付け、活力あるまちづくりを進めるために、子育て・子育てに積極的に取り組んでいきたいと考えています。

## プロフィール

- ◆ 面積 43・19 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 13万4997人
- ◆ 世帯数 5万4763世帯

〔将来都市像〕「手賀沼のほとり 心輝くまち」くろ・鳥・文化のハーモニー

〔まちの特徴〕都心から40km圏内の住宅都市。市民との協働で、自然と文化が調和する活力あるまちづくりを推進

〔特産品〕白樺派のカレー、つくだ煮、

漬物、みそ、コメ、江戸神輿、日本刺繍

〔観光〕手賀沼遊歩道、利根川ゆうゆう公園、我孫子市鳥の博物館、白樺文学館、旧村川別荘、相島芸術文化村

〔イベント〕手賀沼花火大会、あやめまつり、我孫子市産業まつり、ジャパン・バード・フェスティバル、我孫子国際野外美術展



保育士が公園に向いて青空保育(出前講座)

ます。

平成19年6月には、「あびっ子クラブ」(子どもの居場所)を小学校1校でスタートさせました。放課後や土曜日などに、学校の教室や体育館、図書室などを開放してスタッフを配置し、児童が安心して過ごせる場所を提供しています。

子どもの居場所は、大規模化する学童保育室の緩和策として有効であることから、本年4月からは



我孫子市長 星野順一郎



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# 家庭のように感じ、誇りを持って 新しい知立の実現に向けて

はじめに

知立市は、愛知県のほぼ中央部に位置し、尾張地方と三河地方に分けられた西三河地方にあり、市内には国道1号など主要国道、県道や鉄道が交差し、西三河地方を代表する交通の要衝となつていいます。近隣市には、トヨタ自動車のほか自動車関連企業が多く集積し、



在原業平の歌にも詠まれた「三河八橋かきつばた」

名古屋市へも電車で20分という利便性から、現在まで住宅都市として発展してきました。

### 池鯉鮒の歴史と文化

古くは東海道五十三次の39番目の宿場町「池鯉鮒」として栄え、馬市や木綿市が有名で多くの人々にぎわったといわれ、今でも約500mにわたる170本の松並木と、宿場(問屋場跡・本陣跡)碑や馬市之跡碑が残っています。

また、市の花でもある「かきつばた」については、平安の歌人・在原業平が、東下りの途中で知立八橋にさしかかり、一面に咲き乱れている「かきつばた」を見て、歌を詠んでおります。その歌は、「『か』ころも『き』つつなれにし『つ』ましあれば『は』るばるきぬる『た』びをしぞおもふ」と、句頭に「かき

つばた」の5文字が折り込まれています。

ほかに、江戸時代中期から継承されている民俗芸能の「山車文楽」と「山車からくり」(国指定重要無形民俗文化財)があり、西三河一の名社として知られる知立神社の祭礼で山車の上で上演されています。

### 「いっしょにやろまい」を合言葉に

本市では、市民の皆さまと「いっしょに や(やさしい)ろ(ろまん)ま(まなぶ)い(いきいき)」を合言葉に、まちづくりを進めています。

「やろまい」とは、愛知県三河地方および名古屋圏で使われる方言で「やろう」という意味を表しています。

●「や」やさしいまちを目指して

おります。

そのほか、高齢者の皆さまが積極的に社会参加し、生き生きと活動ができる場として、また、障害者団体などの活動や、障害者の皆さまに自立と社会参加を促す地域づくりの場として「高齢者いきがいセンター」や「障害者交流の場」を整備しています。

●「ろ」まんを語れるまちを目指して

現在、最大プロジェクトとして知立駅付近連続立体交差事業およ



5台の山車が勢ぞろいした「知立まつり」

び知立駅周辺土地区画整理事業を推進しています。中心市街地である知立駅周辺は、名古屋鉄道名古屋本線・三河線により南北に分断され、特に知立駅東側に隣接した踏切では、遮断時間が一日11時間弱と極めて長く、市街地の発展の支障となっております。そこで、連続立体交差事業として鉄道を高架化することで都市交通の円滑化を目指し、さらに、土地区画整理事業と街路整備事業など、各事業と一体となつて市街地の整備を行うことにより、商業や居住などの既存機能の再構築や新たな都市機能立地の受け皿づくりにつなげたいと考えております。

●「ま」なびのまちを目指して

近隣市のベッドタウンである本市は、労働者としての外国人在住者が多く、本年8月1日現在における住民登録者数6万9703人のうち、外人登録者数は4294人と愛知県下でも高い割合を占めています。このような状況の中で、地域で暮らしている外国人市民との共生を図るため、多文化共生イベントを開催し、交流を通じた相互理解を深め、よりよい地域社会づくりに努めてまいります。

●「い」いきとしたまちを目指して

市民の収納の利便性向上、市民の収納に対する満足度向上を目的として、コンビニエンスストア、ペイジー、クレジットなどを新たな支払い窓口として追加しました。市役所金融機関以外で、市税などの納付が可能になることで、収納率の向上と納税意識が高まることを期待しております。

### おわりに

本市は、来々、市制40周年を迎えます。今後も、市民の皆さまが、「この知立に住み続けたい・住んでよかった」と思っていただけのような施策を積極的に展開してまいります。そうすることにより、家庭のように感じることが出来る知立、誇りを持って新しい知立の実現へとつながるものと考えております。

### プロフィール

- ◆ 面積 16・34km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 6万9703人
- ◆ 世帯数 2万8893世帯

〔将来都市像〕輝くまち みんなの知立

〔まちの特徴〕東海道池鯉鮒宿や、八橋かきつばたと山車文楽・からくりなどの歴史・文化が残る一方で、鉄道や、国道・県道などの都市交通の充実により発展したまち

〔特産品〕大あんまき(名物 明治中期から)

〔観光〕知立神社、無量寿寺、遍照院(三河三弘法)

〔イベント〕知立まつり、史跡八橋かきつばたまつり、知立公園花しょうぶまつり、秋葉まつり



知立市長 林 郁夫



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

## 市民力がまちの財産 参画と協働のまちづくりを進めています

### 日本最古のため池 狭山池

大阪狭山市は、大阪府の南東部に位置し、大阪市の南の中心地、難波駅から電車で20分ほどの所にあります。狭山ニュータウンの開発に伴い、大阪市や堺市などで働く方々のベッドタウンとして発展し、人口の急増によって、昭和62



狭山池の堤に咲く桜の花

年に「南河内郡狭山町」から「大阪狭山市」になった新しい市です。しかしまちの歴史は古く、市の中央には「日本書紀」や「古事記」にも記された日本最古のため池、狭山池が満々と水をたたえ、悠久の歴史を感じさせます。狭山池は本市のシンボルであり、市民の憩いの場となっています。

築造からこれまでの1400年に及ぶ歴史の中で、奈良時代の僧・行基、鎌倉時代の僧・重源、江戸時代の片桐且元など、歴史上の有名な人物によって改修が繰り返され、昭和63年からは14年の歳月をかけて平成の大改修が行われました。

### 狭山池まつりなど 活発な市民活動

平成の大改修を契機に、改めて

と考えています。

また、市民と行政の協働によるまちづくりを推進するための拠点として設置している「市民活動支援センター」も、市民団体が運営しています。

「市民活動支援センター」では、「まちづくり大学」を開校し、市民が行政の仕組みや行政の現状について学んでいます。講師は市の管理職職員約20名が担当しています。この大学の受講者からは、まちづくりに参画する市民が多く巣立っており、参画と協働のまちづくりを進める市民を養成する機能を担っていると言えます。

さらに市役所には、元接客のプロであった市民が、フロアマネージャー、窓口スタッフとして職員と一緒に働いています。その接客はさわやかで、市民の皆さまから好評を得ています。市の職員も、接客のプロの影響を受けて、さわやかな接待ができるようになり、市民と行政の協働のまちづくりが、新たな成果を生んでいます。

### 自分たちのまちは自分たちがつくる

参画と協働のまちづくりは、市



子どもも大人も一緒に大掃除

やっています。

これらの活動は、すべて市民の手によって行われているのです。

### キーワードは市民協働

活発な市民活動を反映して、市政にも多くの市民が参画し、市民と行政が協働でまちづくりを進めています。



狭山池まつりでの龍神舞台。マスコットキャラクター「さやりん」と

の憲法とでもいうべき自治基本条例の制定や、まちづくりの指針となる総合計画の策定にも生かされています。

自治基本条例の制定では、公募市民を中心とした「市民自治を考える懇話会」の皆さまが2年間にわたって議論したものを提言書として頂き、これを基に条例案を作成し、議会に提案しました。

総合計画の策定に当たっては公募市民の「まちづくり市民会議」を立ち上げ、市の将来像やまちづくりの方向性について議論を重ね、

### プロフィール

- ◆ 面積 11・86 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 5万8122人
- ◆ 世帯数 2万3853世帯

〔将来都市像〕みんなが元気で快適に暮らせる「日本一さわやかなまち・大阪狭山市」

〔まちの特徴〕他市に誇れる高い「市民力」と優れた「地域力」を生かし、



大阪狭山市長 吉田友好



活発な市民協働を展開  
〔特産品〕大野ぶどう(大阪ミュージアムのベストセレクションに選ばれている)  
〔観光〕狭山池(公園)、大阪府立狭山池博物館、あまの街道  
〔イベント〕桜まつり、狭山池まつり(灯火輪、大阪狭山市産業まつり)

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# 四国のまほろば 美馬市 だれもが住みたくなるまちをめざして

## はじめに

美馬市は、平成17年3月に3町一村(脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村)が合併して誕生した新しいまちです。

本市は、四国一の大河・吉野川や14年連続四国一の水質を誇る穴吹川といった日本に誇れる清流や、四国第2の高峰・剣山をはじめとする美しい山々など豊かな自然に恵まれており、「うだつ」の町並みや寺町などの歴史的遺産に象徴されるように、古来より大河・吉野川中流域の政治経済の中心として栄えてまいりました。

こうした特色のある歴史・文化を継承しながら、故郷の誇り高い先人や地域への愛着を大切に、市民それぞれのライフステージにおいて常に元気に活動できるまち

## 共創・協働のまち

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所がまとめた人口推計では、本市の人口は、現在の3万3500人が、平成35年には2万2000人余りに減少し、高齢化率も42%に達すると見込まれています。

今後取り組んでまいらなければならぬ行政課題は数多くありますが、過疎・高齢化に向けた対応



お年寄りに広く活用されている、NPO法人「こやだいら」の過疎地有償運送事業

の創造を目指し、まちづくりを進めています。

そして、目指す将来像を「四国のまほろば 美馬市」とし、行政はもとより市民の皆さまと共に知恵を出し合いながら、「共創」と「協働」という理念を掲げて種々の施策を展開しています。

## うだつが上がるまち

脇町の南町、中町周辺には、小説家・司馬遼太郎先生の「街道をゆく」にも登場する「うだつの町並み」があり、この町並みをそぞろ歩けば、過ぎ去った時代にタイムスリップしたような、懐かしさを覚えます。

ここは、藍を扱う商家が街道沿いに建ち並び、江戸から明治にかけて華やかな活気に満ちた町並みとなったもので、今も暮らしが息

と致しましては、何よりも地域コミュニティを維持し、活性化を図っていくことが重要です。

このため、本市では、同じ地域課題を持つ自治会が連携して個性豊かな魅力ある地域づくりを進めるために、地域の皆さんから提案された施策を支援する「自治会共創と協働モデル事業」を創設致しました。

また、本市の山間部に位置する木屋平地区では、NPO法人「こやだいら」が設立され、交通手段のないお年寄りを病院や買い物に送迎するための過疎地有償運送事業をはじめ農林業の作業支援、庭先での特産品販売やイベントを通じた地域おこし事業など、地域の特性を活かしたコミュニティの活性化に取り組んでいます。

## 結びに

現在の日本は、依然として出口の見えない不況の中にあり、あらゆる分野において暗い影が落ち、行政を担う者と致してもスリムな組織づくりと多様化する市民ニーズへの対応という相反する命題を与えられ、非常に厳しいかじ取りを余儀なくされています。

づく「うだつの町並み」は、昭和63年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、さらに平成19年には、「美しい日本の歴史的風土100選」にも選定されました。

また、昨年発足した観光庁からは、本市をはじめとする県西部の2市2町が「にし阿波観光圏」として四国で最初に認定されました。

## みまっこ宣言のまち

「みまっこ宣言」は、市内の児童生徒たちの行動憲章となる、「目指す子ども像」をうたったもので、市内の小学生を対象に募集し選定したものです。

こうした状況に対応するため、これまで事務事業の徹底的な見直しを行い、効率的な行政運営を図ることが、地方自治体が生き残るための最大の命題ととらえ、聖域のない行財政改革に取り組んでまいりました。

これまでの4年間、市民の皆さまのご理解とご協力を頂きながら、行財政改革について一定の成果を

## プロフィール

- ◆ 面積 367.38km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万3459人
- ◆ 世帯数 1万2891世帯

〔将来都市像〕四国のまほろば 美馬市 ―だれもが住みたくなるまちをめざして―

〔まちの特徴〕徳島県の西部に位置し、総面積の約8割を森林が占め、基幹産業は農林業。古い町並みと自然の調和した美しいまち。

〔市町村合併〕平成17年3月1日、脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村の3町1村が合併し美馬市が誕生。



美馬市長 牧田 久



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。